



自治功労者表彰

笠松町自治功労者表彰が4月6日に行われ、内藤 吉雄さん(天王町)に表彰状と記念品が贈られました。

内藤さんは平成8年2月から25年の長きにわたり町内会長を務められ、平成28年4月からの4年間は、町内会連合会会長として地域の様々な場面でご活躍され地域活動の推進、住民自治の発展に尽力されました。

町内会長表彰

町内会長表彰が3月30日に行われ、長年にわたり町内会長を務められ、町内会組織の発展などに尽力された次の方に表彰状と記念品が贈られました。(敬称略)

【10年表彰】

川島 裕(奈良町)

【5年表彰】

岩田 修(宮川町)

堀 好三(西金池町)

浅野 幸雄(田代中)

「笠松町体育協会」は「笠松町スポーツ協会」へと名称を変更しました

「笠松町体育協会」はスポーツ・レクリエーションのより一層の普及と振興を図るため、「笠松町スポーツ協会」へと名称変更しました。本会は各種町民スポーツ大会やファミリーマラソンの主催、広報誌発行や優秀選手の表彰、協会の加盟団体が開催する大会の支援活動など、スポーツ振興に関わる様々な活動を行っています。

岐阜県伝統文化継承表彰

「ここまで続けて来られたのは、支えてくださった皆さんのお陰です」と謙遜する、和傘轆轤職人の長屋 一男さん(北及)。日本の和傘づくりを支える技の保存と振興における顕著な功績が認められ、この度、岐阜県伝統文化継承表彰を受賞されました。

和傘づくりの工程は非常に複雑なため、各工程に専門の職人がいる分業制で、和傘の一大生産地である岐阜にはかつて多くの職人がいましたが、洋傘の普及などから後継者の育成が進まず、和傘の骨と柄をつなぐ轆轤を作る職人は全国でも長屋さん一人のみとなりました。現在は、クラウド

日本で唯一の和傘轆轤職人

ファンディングで全国から募った寄附を活用し、後継者である近藤 智也さん(岐阜市)への技術継承も進められています。

長屋さんは「和傘には、日本のものづくりの繊細さや技術が凝縮されているんですよ。時代が変わっても、手に取ればその良さは伝わるはず。和紙を弾く心地よい雨音や、傘の内側から見る和傘の美しさは、ぜひ実際に使って感じていただきたいですね」と和傘の魅力を語ります。岐阜和傘は、岐阜市内の中山道加納宿まちづくり交流センターで展示されているほか、河原町などで購入することができます。



1) 40以上のスリットと穴があげられた轆轤。スリットには和傘の骨がはめ込まれ、穴に糸を通して轆轤と骨をつなぎます。2) 自作の刃物で原料のエゴノキから轆轤の型を削り出す長屋さん。3) 轆轤を上下にスライドさせると傘が開閉します。4) 見習いの近藤さん(右)への指導にも熱が入ります。